



Oracle® Essbase Administration Services

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的	2
インストール情報	2
サポートされているプラットフォーム	2
サポートされている言語	2
サポートされているこのリリースへのパス	2
JRE 6 上での JavaFX ランタイムのインストール	3
このリリースで修正された問題	4
既知の問題	5
ドキュメントの更新事項	6
ドキュメント・フィードバック	6
アクセシビリティの考慮事項	7

目的

このドキュメントには、このリリースの Oracle Essbase Administration Services に関する重要な最新情報が記載されています。Oracle Enterprise Performance Management System をインストールする前に、この Readme を十分に確認してください。

インストール情報

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme に記載されています。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix でスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN) の Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品に対してサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブでスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元...	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 へ適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Management の場合、メンテナンス・リリースの適用は、リリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 以降でのみサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 へアップグレードします。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	メンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 へ適用してから、リリース 11.1.2.3 へアップグレードします。
リリース 9.3.3.x	リリース 11.1.2.2 へアップグレードしてから、メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 へ適用します。
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境も該当します	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する項を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 および 9.3.1.7 を除く)、または 11.1.1.x から開始する場合、まずリリース 11.1.1.3 へアップグレードしてからメンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 へ適用し、その後リリース 11.1.2.3 へアップグレードすることをお勧めします。それより前のリリースから始める場合、開始リリースからのアップグレードが直接サポートされるリリースのうち最新のものにアップグレードすることをお勧めします。

Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Oracle Hyperion Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されません。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合、すべての製品をまずリリース 9.3.3 へアップグレードしてからリリース 11.1.2.2 にアップグレードし、その後でメンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 へ適用する必要があります。

JRE 6 上での JavaFX ランタイムのインストール

JRE 6 を使用している場合、Web ブラウザから管理サービス・コンソールを起動する際に JDK6 ランタイム用の JavaFX 2.2.5 ランタイムをインストールする必要があります。インストールしないと機能しないポップアップが表示されて Administration Services が起動しません。

注: JDK6 用の JavaFX 2.2.5 ランタイムを Oracle からダウンロードできません。

このリリースで修正された問題

このセクションには、リリース 11.1.2.3.000 で修正された問題が含まれています。前のリリースとの間で修正された問題のリストを確認するには、Defects Fixed Finderを使用します。このツールにより、所有している製品および現在の実装リリースが識別できるようになります。1回のクリックで、修正された問題の説明とそれに関連するプラットフォームおよびパッチ番号を含むカスタマイズされたレポートが、ツールによってすばやく生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 15955275、14546073 -- Administration Services サーバーは Linux プラットフォームではクラッシュします。
- 14610466 -- 無効な場所が指定された場合でも、データロード・エラー・ファイルが作成されると報告されました。実際のファイルの場所は不明なままです。
- 13027325 -- ユーザーが共有メンバーを持つメンバーをコピーした場合、Administration Services により、共有メンバーの変更が試行されます。
- 14365726 -- ロケーション別名を変更すると、Administration Services により別名の2つのバージョンが作成され、スクリプトが失敗します。
- 14744797 -- ライフ・サイクル管理はデータのロード前に Essbase データベースを消去しません。
- 12957625 -- ライフ・サイクル管理は、エクスポートにデータまたはセキュリティのいずれかが選択されない場合、通貨データベース内の計算スクリプトをエクスポートしません。
- 14240429 -- Essbase がスタンドアロンとして構成されている場合、Essbase または Maxl を使用してユーザーをグループに追加することはできません。
- 14257967 -- 完全修飾重複メンバー名に@特殊文字の使用は許可されません。
- 14335002 -- Administration Services が、Websphere を使用して 64 ビットの Red Hat Linux 5.7 プラットフォームにインストールされている場合、ログインは失敗します。
- 14511087 -- 削除操作が取り消された場合でも、Administration Services アプリケーションは削除されます。
- 14733034 -- Administration Services サーバーが Compact Deployment にインストールおよび構成されている場合、Web アプリケーションは Administration Services コンソールにログインできません。
- 15955278、14122676 -- Administration ServicesJNLP コンソールの開始を試行すると、Java 証明書が検証されなかったため証明書が自己署名証明書であることを示すエラー・メッセージが生成されます。コンソールは開始されません。
- 14285563 -- 集約ストレージ操作のテーブルスペース・プロパティは韓国語で表示できません。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 16584272、16584238、16584216 -- Administration Services サーバーが AIX 上で実行されている場合、計算スクリプト・エディタは正常に動作しません。機能の制限により、計算スクリプト・リストの表示や、計算スクリプトの作成または編集、あるいは計算スクリプトの編集の実行などができなくなります。
- 16670757、16628180 -- 英語以外の Linux プラットフォームで実行される Essbase サーバーへの接続あるいは Essbase Rapid インストールを使用した英語以外の Windows サーバーへの接続に EAS コンソールを使用している場合、エラー・メッセージが誤って発行されることがあります。

解決策: 元のローカライズ版 `essbase.mdb` ファイルを英語版 `essbase.mdb` ファイルと置換し、Administration Services コンソールで英語のエラー・メッセージを取得します:

- **Linux 32 ビット・インストール:** `EPM_SYSTEM_HOME/common/EssbaseRTC/11.1.2.0/bin/essbase.mdb` を `EPM_SYSTEM_HOME/common/EssbaseRTC/11.1.2.0/localized/en/bin/essbase.mdb` と置換します
 - **Linux 64 ビット・インストール:** `EPM_SYSTEM_HOME/common/EssbaseRTC-64/11.1.2.0/bin/essbase.mdb` を `EPM_SYSTEM_HOME/common/EssbaseRTC-64/11.1.2.0/localized/en/bin/essbase.mdb` と置換します
 - **Windows 32 ビット・インストール:** `EPM_SYSTEM_HOME\common\EssbaseRTC\11.1.2.0\bin\essbase.mdb` を `EPM_SYSTEM_HOME\common\EssbaseRTC\11.1.2.0\localized\en\bin\essbase.mdb` と置換します
 - **Windows 64 ビット・インストール:** `EPM_SYSTEM_HOME\common\EssbaseRTC-64\11.1.2.0\bin\essbase.mdb` を `EPM_SYSTEM_HOME\common\EssbaseRTC-64\11.1.2.0\localized\en\bin\essbase.mdb` と置換します
- 16554835、16498223 -- ローカル・オンライン・ヘルプは、Administration Services アプリケーション・サーバー・ポート経由のデフォルトでは使用できません。

HTTP Web サーバーが構成された Oracle Enterprise Manager インストールでは、Administration Services コンソール内にある Web サーバー・ポートを経由して Administration Services サーバーへ接続すると、中央のオンライン・ヘルプにアクセスできます。ただし、接続に Administration Services アプリケーション・サーバー・ポートを使用している場合、オンライン・ヘルプは使用できません。Oracle Essbase Administration Services アプリケーション・サーバー・ポートを経由してローカル・オンラインを使用可能にするには、EPM System インストールおよび構成ガイドのオンライン・ヘルプのインストールおよび構成に関する項に示す手順に従ってください。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの「EPM System Documentation」領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)からダウンロードおよび表示できます。EPM System のドキュメント・ポータル(<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもできます。このサイトは、EPM でサポートされているプラットフォームのマトリックス、My Oracle Support およびその他の情報リソースにもリンクしています。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

サーバー切断時に使用不可であるログ・オプション

Essbase サーバーが切断されている場合、Essbase サーバーのログを作成、編集、表示および生成するオプションはグレー表示されます。

クラスタのデータ・プレビューに必要な Provider Services

クラスタ名を使用して Oracle Essbase サーバーを追加後、そのサーバー上のデータベースのデータ・プレビューを実行するために、Oracle Hyperion Provider Services を実行している必要があります。

ドキュメント・フィードバック

次の電子メール・アドレスに製品ドキュメントのフィードバックを送信してください:

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトの EPM 情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。製品のアクセシビリティ・ガイドに説明されている、EPM System 製品サポート・アクセシビリティ機能。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System のドキュメント・ライブラリ (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供されます。

著作権情報

Administration Services Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。